
「^{きんけつしやう}菌血症を呈した尿路感染症の治療経過に関する後ろ向き観察研究」

についてのご説明

1. はじめに

急性腎盂腎炎などの有熱性尿路感染症では、しばしば血液の中に細菌が入り込む「菌血症」を起こします。このような「菌血症」を起こすような有熱性尿路感染症は通常、抗菌薬での治療で治ることが多いですが、しばしば治療が難しく、重症となります。適切な治療方法については、まだ分かっていないことがあるのが現状です

2. 研究対象

2013年1月1日から2016年12月31日の間に、有熱性尿路感染症と診断され、血液培養で細菌が検出され、本院で抗菌薬での治療を受けた方を対象としています。

3. 研究内容

対象となる患者さんのこれまでの診療記録（カルテ）から、有熱性尿路感染症の経過についての情報を調べます。なお、この研究をおこなうことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

4. 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩^{ろうえい}を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化など厳格な対策を取っています。本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文など）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2013年1月1日から2016年12月31日の間に、有熱性尿路感染症と診断され、血液培養で細菌が検出され、本院で抗菌薬での治療を受けた方の中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記まで御連絡下さい。ただし、御連絡をいただいた時点ですでに研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果からあなたに関するデータを取り除くことはできず、研究参加を取りやめることができなくなります。

6. 研究期間

2019年10月10日から2020年3月31日まで

7. 予定症例数

59名の方の参加を予定しています。

8. 利用する情報

カルテ情報：採血および細菌学的検査結果、年齢・性別、ほかの病気の有無などの背景、抗菌薬の投与方法、起因菌の種類、治療の経過

9. 研究責任者

札幌医科大学附属病院 泌尿器科 講師 田中 俊明

10. 医学上の貢献

菌血症を起こした有熱性尿路感染症は、重症となる傾向にあり、また再発をしやすいという特徴があります。これらについてはデータが不足しており、どのような治療方法が適切であるか、分かっていないことがあります。そこで本研究では、当院で菌血症を起こした有熱性尿路感染症の治療を受けた患者さんのデータを収集することで、今後の診療に役立てたいと考えております。

11. 問い合わせ先

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 泌尿器科

研究責任者 田中 俊明

【平日】

泌尿器科教室

電話:011-611-2111 内線 34720 (平日:8時45分~17時00分)

【休日・時間外】

西 8 階病棟

電話:011-611-6111 内線 39260 (休日・時間外(17時00分~8時45分))